

訪日客消費2.9%減

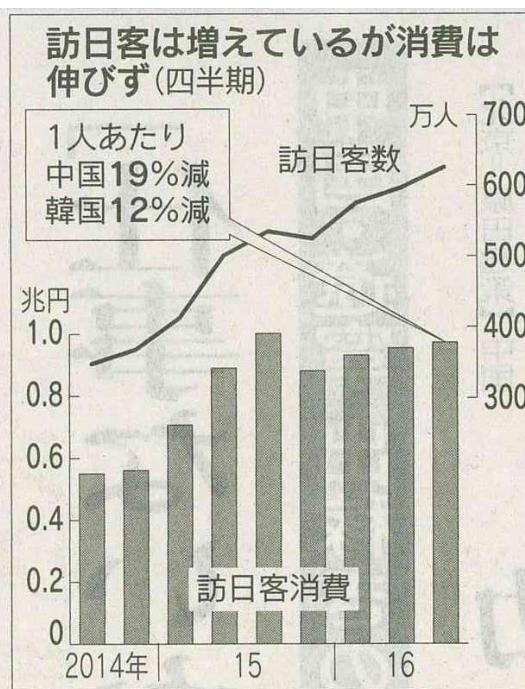
7~9月 4年9カ月ぶり

客数は堅調

円高・現地通貨安が進んでおり、観光庁の田村明比古長官は19日の記者会見で「消費額は為替の影響が大きい」と述べた。日銀は10月の地域経済報告で、訪日客消費が海外ブランド品など高額品から化粧品や菓子などの日用品に移り、体験型消費を好む外国人が増えていると分析した。「10万円を超える腕時計や10万円程度の炊飯器の売れ行きが芳しくない」(札幌支店)、「高単価な基礎化粧品が台湾や中国に人気」(那覇支店)など

00万人に達するとみる。

観光庁は19日、7~9月の訪日外国人旅行消費額が9717億円と前年同期比2.9%減ったと発表した。マイナスは2年11月~12月以来、4年9カ月ぶり。日本政府観光局が同日発表した9月の訪日客は前年同月比19%増の191万82



00人だった。訪日客数は拡大が続くが、1人あたり消費額が17.1%減たり、全体を押し下げた。訪日客消費を項目別にみると、宿泊料金や飲食費は前年比でプラスだったが、買い物代が17%減と落ち込んだ。消費額の8割を占める中国、台湾、韓国、香港、米国のうち、現地通貨ベースで1人あたり消費が落ち込んだのは香港だけだった。これらの地域では1年前に比べて1~2割ほど

の累計は前年同期比24.0%増の1797万7700人。通年で過去最高になるのは確実で、観光庁は11月初旬までに200万人に達するとみる。